

エルダー

特集



人生100年時代
継続雇用・定年延長を考える
―生涯現役社会の実現に向けたシンポジウム―

リーダーズ
トーク

「生涯一社」では終われない時代
キャリアを自身でデザインする自覚を
独立行政法人国立女性教育会館 理事長 内海 房子

連載

知っておきたい労働法 Q&A 家永 勲

2019

3

生涯現役で働くとは

年齢の心配は杞憂きゆうでした。定年は65歳ですが、定年年齢を超えた先輩たちが活き活きと働いています。近藤会長の「社員第一主義」が職場の風通しをよくしていることを、実感しています。

現在の役職は嘱託で、一年に一度面談があ

▼技術を次の世代へ継承

レーザー機器専門の輸入商社である日本レーザーの近藤宣之のぶゆき会長は、社長時代に本誌に登場、「社員を徹底的に大切にすることを」について熱く語っている(2015年2月号「トップインタビュー」)。最近、「社員を「大切に」にするから赤字になる。「甘い」から赤字になる」(あさ出版)※を上梓しやうしした。

レーザーは1月入社が慣例となっており、早期退職から十カ月経った2010年の1月、第二の人生がスタートしました。

商権が以前勤めていた会社から日本レーザーに移ったという幸運も重なり、技術サービスの分野で採用されました。

家族は早期退職を受け入れるのは最後まで反対でした。将来のことがわからないのですから当然であり、私自身、これまで研鑽けんざんしてきた技術が必要としてくれる会社があったことに驚いたほどです。人生は簡単にあきらめてはいけなさと、あらためて思っています。

▼働き続ける喜びを胸に

私が今日まで頑張ってきたのは自分しかない技術を磨き続けてきたからです。いまの若い人たちはとても真面目で勤勉ですが、水準器の使い方一つとっても経験と勘が物をいいます。体力のあるうちに自分の知っていることを次の世代へ伝えておきたいと思っています。

いま一番気にかかることは若い人への技術の継承です。お恥ちずかしい話ですが、レーザー専門の輸入商社にいて、正直レーザーのことはあまりわかりません。その代わり除振台のことなら何でもわかります。

例えば、除振台を使う際は水平に設定しなければならず、そのために水準器を用いますが、水準器の使い方一つとっても経験と勘が物をいいます。体力のあるうちに自分の知っていることを次の世代へ伝えておきたいと思っています。

早期退職でしたから退職金も上乘せされま

第59回

生涯現役で働くとは



株式会社
日本レーザー

技術部

坂本幹夫さかもとみきおさん

技術畑ひと筋に歩き続けてきた坂本幹夫さん(66歳)。これまでつちかってきた技術を活かせる職場で第二の人生がはじまったことに感謝し、次の世代に技術を継承することを自らの使命として今日も仕事の第一線に立つ。常に前向きな坂本さんが、生涯現役の未来を語る。

▼通信士に憧れて

私は広島県安芸郡戸坂村あきぐんこがねの生まれです。現在は市町村合併により、広島市東区戸坂となっています。高校時代は新聞奨学生として新聞配達を続けました。いま思えば、そのときの経験が私の人生の原動力となっています。

高校卒業後、東京の大学へ進学するために単身で上京しました。船乗りになるのが夢だった私は、その方面の学部を選びましたが、現実にはなかなか厳しく早々にあきらめました。ただ、通信士として船に乗る道もあると考え、電気通信大学の夜間部に入り直しました。結局、船に乗る夢は叶いませんでしたが、通信専攻科と合わせて5年間通信技術を学んだことが、後に天職というべき仕事につながるので、人生は面白いものです。

大学を卒業すると、当時、大学OBの就職先の一つであったエレクトロニクスの専門商社に技術者として採用されました。入社当初はトランジスタの交換などが主な仕事でしたが、そのうち「除振台」の組立てや調整を担当するようになりました。

少し専門的な話になりますが、業界では、床から発生する振動を精密機器に伝えないようにすることを除振といい、そのために除振台を使用します。米国のメーカーから輸入した除振台を納品するとき、組立てや調整に高

度の技術が求められますが、私は、それができる数少ない技術者の一人であったと自負しています。

単身で上京し、遺跡調査のアルバイトをしながら5年間大学の夜間部に通った。高校時代の新聞配達を合わせると十代の大半を働きながら学び続けた。「働くこと」はまさに「よりよく生きること」であった。

▼ピンチをチャンスに変えて

小さい頃からものづくりが好きで、発明工夫コンクールで賞をもらったこともありましたが、船乗りの夢は大学卒業のころにはあきらめました。新婚旅行でハワイに行ったときにひどい船酔いに苦しみましたから、技術畑に進んだのは賢明だったかもしれません。

専門商社では、米国やフランスなどのメーカーでの技術研修にも行かせてもらい、やりがいのある職場でしたが、58歳のとき、会社の事情で早期退職を余儀なくされました。一瞬目の前が暗くなりましたが、働く意欲は人一倍旺盛でしたから、ハローワークへ通う日々が続きました。

あるとき、株式会社日本レーザーが技術者を募集していることを知り、さっそく面接を受けました。技術に自信はあるものの年齢を考えると不安がありましたが、米国の会社の

したが、58歳でリタイアする気持ちはまったくありませんでした。自分の技術を受け入れてくれる会社があったからこそ、私はいま、ここに立っており、働き続けることで社会とつながっていることを幸せに思います。

いまのところ70歳までは働けるそうですし、会社はきつとその先を考えていてくれると思います。長く働き続けるために、とにかく健康でいなければと気を引き締めています。

4年前に会社の定期健康診断で大動脈瘤が見つかったときは驚きましたが、発見が早く、事なきを得ました。45歳で剣道を始め、いまも続けています。剣道を習い始めた娘を送迎するうち、だんだん上達する娘を指導するには自分が始めるしかないと思ったのがきっかけでした。おかげさまで四段まで進み、休日には近所の小学生に教えています。

唯一趣味といえるものがあるとしたら、天体観測です。景気がよくなったときにボイナスをはたいて天体望遠鏡を購入しました。組立て式ですが大型なので、わが家の狭いベランダには置けず、近所の川辺で星を眺めています。冬は星座がよく見えますから、最高のリラックスタイムです。

最近、「人生100年時代」という言葉が耳にします。100年生きるということではなく、その時代をどう働かかというところが問われているようですが、一年一年でいねいに積み重ねていくしかない、私は思います。

※「BOOKS」(56頁)で紹介しています

社員を徹底的に大切にすることで20年以上黒字を続ける会社のノウハウを公開

社員を「大切にする」から黒字になる。
「甘い」から赤字になる。



近藤宣之 著
あさ出版
1500円+税

社員数約60人という規模でありながら、「日本ではいちばん大切にしたい会社」大賞で中小企業庁長官賞を受賞するなど、数々の受賞歴を誇る「株式会社日本レジャー」。本書は、同社長として20年以上も陣頭指揮を執ってきた著者（現会長）が、社員を徹底的に大切にすることで手に入れた経営手法を余すところなく公開したものだ。「実際にどうすればよいのか」との視点から実践的なノウハウが紹介されているので、生きた「経営の教科書」といえるだろう。

多くのビジネス書はトップの経営理念の紹介にとどまることが多いが、本書には同社の採用制度や教育制度、人事制度、賃金制度、総合評価制度などが紹介されており、さらに巻末の資料（約40頁）には、就業規則や賃金規程、退職金規程の特徴的な部分、総合評価表、人事制度改革の年表などが収録されている。そこまでするのは、「社員を大切に、幸せにして、なおかつ利益を上げ続ける会社が増えてほしい」という著者の願いからだ。

同社は、社員本人が希望すれば70歳まで働くことができる。今号の「生涯現役で働くとは」（30頁）には、同社の坂本幹夫さん（66歳）に登場していただいた。あわせてご覧いただきたい。

生きていくことにワクワクする力をもらえるエッセイ集

90歳を生きること
生涯現役の人生学



童門冬二 著
東洋経済新報社
1200円+税

本書は、本誌の長期連載「江戸から東京へ」でおなじみの歴史小説家・童門冬二氏が、自身の近況を軽妙な言葉でつづったエッセイ集。童門氏は1927年生まれ。「生涯現役、一生勉強」をモットーに、90歳を超えてなお、作品を書き続けるとともに、歴史に見る経営術やリーダーシップなどをテーマにした講演を全国各地で行い、好評を博している。

本書には、そうした日々のなかで自問すること、老化の実感、体の不調、遭遇した新たな危機、また、歴史上の人物の好きなエピソードなどが記されている。童門氏によれば、本書は「いつまでもたっても悟り切れない、文字通り『起承転結』の『転』を生きる、いわば『転々悶々』の呻き」であるといい、「呻きの中にも喜びあり」という実感もあると付け加えている。

孔子が「論語」で生涯行うべきことを一文字で表した「恕」（相手の身になってものを考える優しさ、思いやり）にはじまり、「仁」「道」「誠」「縁」をテーマにまとめられた内容は、読者にも自問自答の機会を与えたり、心の糧となったり、笑顔にさせてくれる。生きていくことにワクワクする力をくれる、生き活きとしたエピソードが満載の一冊である。



※このコーナーで紹介する書籍の価格は、「本体価格」（消費税を含まない価格）を表示します